

北海道浮魚ニュース

平成 30 (2018) 年度 7 号

2018 年 6 月 29 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

6 月 20 日～27 日の期間、北海道渡島大島周辺から瀬棚沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。なお恵山沖 (St. 14) での調査は荒天により中止しました。

- ・スルメイカ分布密度は昨年平均を上回り、過去 5 年平均と同程度であった
- ・スルメイカのサイズは昨年及び過去 5 年平均よりも大きい

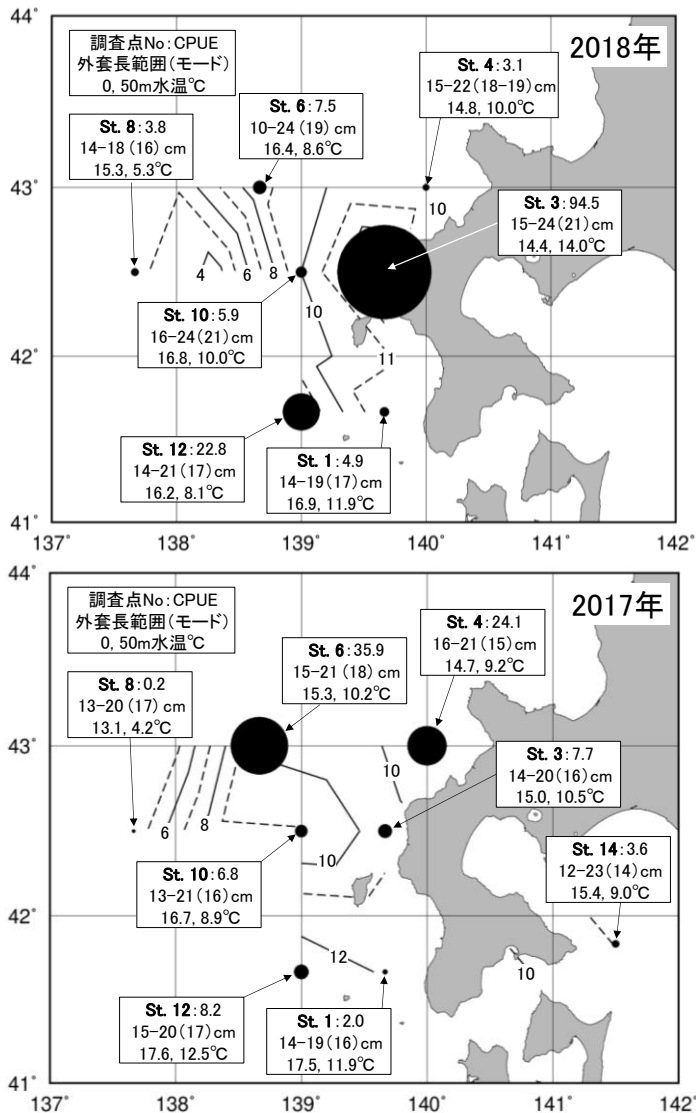


図1 スルメイカ漁獲調査結果、●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例(1以下は同じ大きさ)。等温線は深度50mの水温(°C)

1. 水温分布 (図1)

漁獲調査点 7 点の表面水温は 14.4～16.9°C (昨年 13.1～17.6°C)、深度 50 m 層の水温は 5.3～14.0 °C (昨年 4.2～12.5°C) でした。

深度 50 m 層の水温は沖側で低く、沿岸側で高くなっていました。スルメイカの分布の目安となる 10°C 以上の水温帯は東経 139 度以東に広がっていました。

2. スルメイカの分布密度 (図1、表1)

漁獲調査点 7 点の CPUE (2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 3.1～94.5 (昨年 6 地点 0.2～35.9) の範囲で、最も CPUE が高かったのは瀬棚沿岸の St. 3 (94.5) でした。次に CPUE が高かったのは渡島大島西方の St. 12 (22.8) で、他の調査点では 3.1～7.5 の範囲でした。前年に最も CPUE が高かったのは、この沖側の St. 6 (35.9) でした。漁獲調査を行った 7 地点の平均 CPUE は 20.4 で前年の平均 (12.1) を上回り、過去 5 年の平均 (21.5) と同程度でした。

表 1 2013年～2018年の6月漁場一斉調査での、日本海7調査点の地点別CPUE（尾/1台1時間）及び過去5年平均。

調査点	北緯	東経	概要	2013	2014	2015	2016	2017	2018	過去5年
St. 1	41-40	139-40	上ノ国沖	30.2	27.0	4.7	7.2	2.0	4.9	14.2
St. 3	42-30	139-40	瀬棚沿岸	44.4	84.8	20.8	12.6	7.7	94.5	34.1
St. 4	43-00	140-00	島牧北方	4.3	45.1	--	8.5	24.1	3.1	20.5
St. 6	43-00	138-40	泊西方沖	4.2	70.1	--	5.7	35.9	7.5	29.0
St. 8	42-30	137-40	檜山西方沖	5.0	18.1	--	--	0.2	3.8	7.8
St. 10	42-30	139-00	奥尻島北西沖	4.4	84.9	--	25.6	6.8	5.9	30.4
St. 12	41-40	139-00	渡島大島西方	6.6	15.1	16.9	47.4	8.2	22.8	18.8
平均CPUE				14.2	49.3	14.1	17.8	12.1	20.4	21.5

3. スルメイカの大きさ（図1、図2）

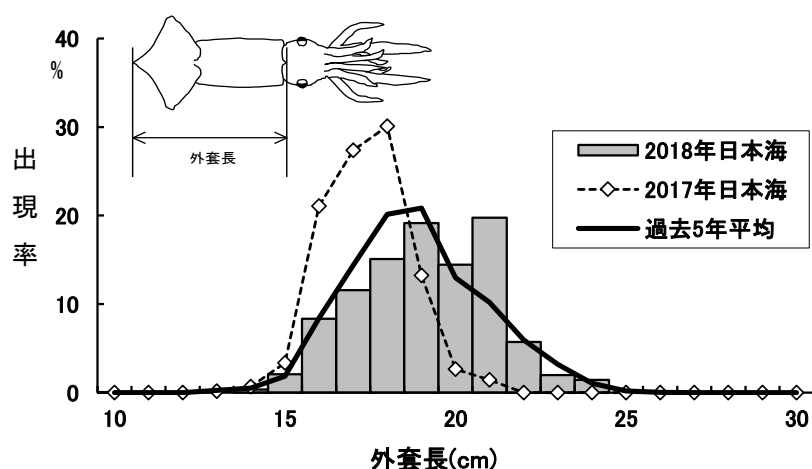


図 2 日本海スルメイカの外套長組成

日本海側7調査点のスルメイカ外套長（胴長）の出現範囲は10～24 cm（昨年13～21 cm）でした。最も多く出現したイカの大きさ（モード）は21 cm（昨年18 cm）で、海域全体の魚体の大きさは昨年及び過去5年平均より大型でした。各調査点のモードの範囲は16～21 cm（昨年16～18 cm）でした。

4. 標識放流（図3）

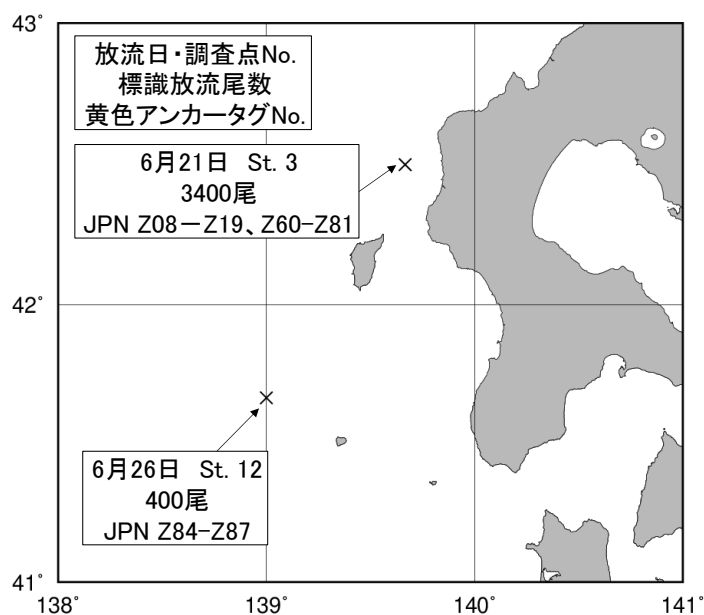


図 3 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識番号

調査期間中、日本海の2調査点で合計3800尾の標識放流を行いました（図3）。放流したイカにはヒレの付け根部分に、黄色の標識タグが打たれています。日本海では日本海区水産研究所の漁場一斉調査の一環として、他府県の機関でも同じタグを使用した標識放流が実施されています。標識のついたスルメイカを発見した方は、最寄りの水産試験場まで連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。